

テーマ 「歯を大切にしよう」



1 はじめに

本校では、給食後に歯みがきタイムを設け、養護教諭における歯の健康教育が行われている。その中でも、年に2回、全校児童に歯の染め出しを実施し自分の磨き残しを確認させ、歯みがきの大切さについて指導している。その時間を活用して、低学年には「歯に良いおやつ」、高学年には「よくかむことの大切さ」について養護教諭と連携して指導することにした。

2 実践内容



(1) 歯に良いおやつを考えよう (1～3年)

ねらい 歯に良いおやつと良くないおやつを知り、食後はすすんで歯みがきをするようにする。

時間配分	活動の内容	児童の様子
1分	1 本時のめあてを知る。 (栄養教諭)	
9分 (5分)	2 おやつについて考える。 (1) 歯に良いものと良くないものを考え、ワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「はてなボックス」を用いて、回答を○×形式にしたため、児童は楽しみながら取り組んでいた。 ○ ケーキやチョコレートなどの甘いものが、歯に良くないものだとよく理解していて、ワークシートの記述もすぐに取り組んでいた。 ○ せんべいがお菓子ということもあり、歯に良いと思う児童が少なかった。 ○ くだものや小魚は栄養を考えて、選ぶ児童がいた。
(4分)	(2) 分けた理由や分けたおやつから気付いた事を発表する。	
	 <p>クッキーは歯に良いかな？</p> <p>砂糖が多いから、ダメ。</p>	
5分	3 おやつを食べた時の歯の様子について知り、歯みがきの大切さを知る。 (養護教諭)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 包丁の刃を歯に見立て、ケーキとりんごをそれぞれ切り、刃に付く食品の状態の違いに驚いていた。 ○ りんごを切ると果汁が刃に付いたため、水道水をだ液と見立て、だ液が口の中を洗い流す効果があることを知らせると、大きくうなずいていた。 ○ ケーキを切った包丁に、クリームが付く様子を見ると、「わあ～、たくさん付く～」と驚いていた。 ○ 水で流してもとれない様子から、そのままにしておいてはいけないことがよく分かったようだった。
	 <p>そのままにしていたらどうかな？</p> <p>むし歯になる～。</p>	
30分	4 歯の染め出しを行い、自分の口の様子を確認する。	

(2) かむことの大切さについて知ろう (4~6年)

ねらい よくかんで食べることが、歯を大切にすることになることを知る。
食後はすすんで歯みがきをする。

時間配分	活動の内容	児童の様子
1分	1 本時のめあてを知る。 (栄養教諭)	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゼリーとこんぶの実物を見ると、喜んだ様子で早くやりたいと意欲的だった。 ○ 「回数」「だ液の量」「食べものの様子」など、おさえる項目を知らせてから食べさせたので、普段よりよくかんで食べる姿が見られた。 ○ ゼリーがだ液と混ざりやすかったことから、ゼリーの果汁をだ液と間違える児童がいた。 ○ 固いこんぶがやわらかくなっていく様子を感じ取って欲しかったが、やわらかいと言うよりもつぶつぶになったと感じ取っていた児童が多かった。
12分 (5分)	2 2種類の食品を食べ比べる。 (1) 回数、口の中や顔の様子を感じながら食べる。	
(7分)	(2) 分かった様子を発表する。	
 <p>こんぶは65回だった。 だ液がいっぱい出た。</p>		
7分	3 よくかんで食べる効果を知る。 (養護教諭)	<ul style="list-style-type: none"> ○ よくかむことの効用「あたしはがいのち」について知らせと、熱心に聞く姿が見られた。 ○ 頭文字から効用について考える姿も見られた。
 <p>だ液って、すごい。 がんにもいいんだ。</p>		
25分	4 歯の染め出しを行い、自分の口の様子を確認する。	

3 まとめ

栄養教諭と養護教諭がそれぞれの専門性を生かしたことで、児童にとってより理解が深まったと感じることができた。

食品を用意し、実体験をさせたことで児童の興味・関心が高まり、かむことや歯みがきの大切さがより具体的にわかったようだった。養護教諭と何度か打合せをし、食品選びやワークシートの内容など検討したにもかかわらず、高学年に用意した食品では、教諭側が意図した感じ取らせた内容に違いがあった児童もいたため、食品選びの重要性も痛感した。

今後も担任や養護教諭との TT や授業を重ね、栄養教諭の専門性を生かした授業ができるよう努力していきたい。

